



2020-21
国際ロータリーテーマ



ロータリーは世界の夢を築く



ホルガー・クナーク

2020～2021年度 標語
「強い、絆で、未来を築こう」
諫早西ロータリークラブ
会長 野中英己



第1681例会 2020年12月9日例会記録 NO.19 天候 晴れ

【本日】会員数 45名 出席 43名 欠席 2名 出席率 95.56%
【12/2】会員数 45名 出席 43名 欠席 2名 (MU 4名) 免除 0名 出席率 95.56%

会長の時間



野中英己 会長

世界中にあるダイコン

ダイコンは日本人の食生活になくてはならない食材です。原産は地中海沿岸とも、コーサカス地方とも言われていますが、はっきりとはしていません。現在、年間を通して食べることはできますが、11月～3月が旬とされています。12月に京都の寺院で行われる「大根焚き」は冬の風物詩です。独特の甘みは、ジアスターゼという酵素によるもので、胃酸過多や、胃もたれの症状を緩和してくれるといえます。葉にはベータカロテンやビタミンKが豊富に含まれているので、塩漬けにしたり、ごはん混ぜたりして、食べるといいでしょう。ロシアやインド、エジプトなど世界中で日常的に使われ、その種類は500以上もあります。日本でも100種類以上あり、春の七草の一つにもなっております。

長さ1メートルを超える守口ダイコンや直径30～40センチの桜島ダイコンなど、大きさや味もさまざまです。食材だけでなく、農具のような役割を担うこともあります。カナダ北部プリンス・エドワード島では、ジャガイモを作る際に、まず大根の種をまき、大根ができたなら抜き取って、その穴にジャガイモを植えるそうです。

幹事報告

【例会変更】

※諫早ロータリークラブより

日時：令和2年12月18日(金)

→17日(木) 18:30～

場所：水月楼 ※忘年例会のため

【例会休会】

※諫早ロータリークラブより

①日 時：令和2年12月25日(金)

②日 時：令和3年1月1日(金)

※定款第7条第1節(d)により

【お知らせ】

※一般財団法人比国育英会バギオ基金より

「2019年度事業報告書の送付と基金へのご寄付のお願い」

※ガバナー事務所より

「会員増強詳細報告：2021年に向けて：重要な年末の最新情報」

会長／野中英己 幹事／宇土久 創立日／昭和60年2月20日 認証日／昭和60年3月5日
例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日) 〒854-0053 諫早市小川町71-1 TEL (0957) 24-3907
事務局／諫早商工会議所内 〒854-0016 諫早市高城町5番10号 TEL (0957) 22-3323
会報委員／草野 恵介・原田 典範・久保 泰正・清水 淳・吉田 健一郎
HP/<http://isahaya-west.com> E-mail/info@isahaya-west.com

委員会報告



35 周年実行委員会 森 由有 委員長

- ・理事会に収支報告を行い、承認されました。
(予算は特別会計からの 100 万円と祝金 5 万円で、事業を行った結果、残金が 23,659 円となり、特別会計に返金しました。)
- ・事業経費の内容は、祝宴費用、記念品（集合写真とボールペン）、横断幕、等です。なお、横断幕は今後のクラブでのイベントで使用できるようにしています。
- ・資料及び手順を記録した DVD を作成しましたので、今後の事業の参考にしてください。

😊 スマイルボックス 😊



親睦活動委員会 荒木 賢治郎 委員

- 野中 英己君：本日もロータリー活動頑張ります。
平 武君：ウエスト会で久しぶりに馬券頂きました。
山口君、永井君有難うございました。
小島 礼文君：早退します。
佐藤真太郎君：早退します。

本日の合計 (12/9)	累 計 額
¥ 5,000	¥ 586,000

クラブアッセンブリー === 年次総会 ===



毎熊 正太郎 会長エレクト

- ▶ 次年度役員・理事の投票
全員賛成にて次年度の役員及び理事が選出されました。
- ▶ 次年度理事会開催の案内

◆ 討論会【家庭集会で出された議題について】

- ▶ 女性会員の取り扱いについて
- ▶ 若い会員の奉仕活動への参加について

ロータリーの友 12 月号『卓話の泉』より転載

「宝くじ 当せん確認は小まめに」

みずほ銀行千束町支店長 関根 秀明

「宝くじ」とは、日本独自の呼び名です。終戦直後、1 枚 10 円ほどで売られていた宝くじは、織物や缶詰などが賞品でした。物資が不足する中で、宝物のような品々が当たるくじ、ということで名付けられたようです。

宝くじが登場した 1945 年度の販売総額は 3 億円相当でしたが、2001 年度には 1 兆円の大台を超えるなど、戦後日本の発展とともに大きく成長してきました。2018 年度の販売総額は前年比約 180 億円増加し 8,046 億円で、これはくじの種類にかかわらず総販売数に対し、日本人一人当たり年間約 26 枚購入した計算になります。「ジャンボ宝くじ」では、1999 年から 1 等賞金が 1 億円を超え、2018 年度の当せん本数から高額当せん者の誕生ペースを計算すると、1 億円以上の当せん者が 30 時間ごとに 1 人、100 万円以上は 34 分に 1 人誕生していることになります。

宝くじの売上金は、半分近くが当せん金として当せん者に支払われています。そして、宣伝費や印刷費などの経費を除いた約 4 割が、収益金として発売元である地方自治体に収められており、各自治体によって幅広く公共事業に使われています。たとえば宝くじにはずれたとしても、社会貢献や身近な街づくりに役立っているのです。

せっかく当せんした宝くじも、支払い開始日から 1 年を経過すると時効となり、当せん金を受け取れなくなります。2017 年度の宝くじの販売総額が 7,866 億円だったのに対し、2018 年度に時効となった当せん金はなんと 127 億円もあり、この中に 4 億円以上の当せん金が 1 本、1 億円以上は 7 本もありました。当せん確認と換金はいち早く行うことをお勧めします。また、「宝くじの日」の 9 月 2 日は、はずれくじでも再抽せんで賞品が当たるチャンスがありますから、ぜひ確認してみてください。

(第 2580 地区・東京都・東京浅草中央 RC にて・同 RC 会員)